

共生社会 相互理解が鍵

テーブルに置かれた大量の使用済みインクカートリッジが、瞬く間に分解されて仕分けられている。知的障害者は1958人。セイコーエプソンの特例子会社・エプソンミズベ（諏訪市）の湖畔工場で働く知的障害や精神障害のある社員の手さばきは、まさに職人だ。

令和2年6月1日現在、県内の障害者雇用促進法の対象企業で雇用されている障害者は7068・5人。前年比4・4%増で過去最多となった。知的障害は1958人、5人で平成21（2009）年比でほぼ倍増、精神障害は1156人で同比で約10倍となった。知的障害者の雇用は平成9年に義務化、精神障害者は18年に同法の適用対象となった。知的障害や精神障害はその度合いや特性が見た目ではわからず、十人十色だ。

未来をひらく

松本障害者雇用支援センター・チャレンジ松本では、そうした若者たちの認知の特性を見極め、

《第1部》ふるさとメアッ。プデート

④ 誰もが輝く地域に

できることを広げて就職できるよう取り組んでいる。各自の特性を企業に開示する「カルテ」作りは必須で、支援員の山田洋盟さん（40）は「言葉では難しくても文字の指示なら覚えられるといったことがある」と話す。

エプソンミズベでは障害者149人が勤めている。うち85人が松本地方の4工場で働いている。昨年からは一人一人の特性や対応の方法を文書化し、誰でもサポートできるようにした。健常の社員全員が障害者職業生活相談員の講習を受け、18人は職場適応援助者の資格も取得しており、障害者の定着率は全国平均を大きく上回る。



エプソンミズベで働く社員たち。手前の横内庄一さん（59）は安曇野市明科中川手には足に障害があるが、全国障害者技能競技大会の金メタリストだ

荒井孝昌管理部長は「自閉傾向で常にマスクで顔を隠していた女性社員が、全国障害者技能競技大会に出場したことでマスクをしなくなった」と話す。障害のあるなしにかかわらず、人が幸せであるためには有用感や自己肯定感が必要で、「障害」の一言でくくっては見落とされてしまう可能性があることを物語るエピソードだ。

障害者雇用に詳しい慶応大学商学部の中島隆信教授は「どんな人も当事者になり得る」と指摘し、「当人ではなく、社会の側に障害があるという発想で取り組むことで、いろいろな人を受け入れ可能な社会ができる。障害に限らず、出産、介護、難病など、さまざまな変化や困難に柔軟に対応できるように」と意義を語る。

（柳 純一）

みんなの一言

・あらゆる障害に対する理解が不足している。お互いさまであらゆる事が解決できると思うので、その理解を深める機会が必要。

（松本市、会社員女性・47歳）

・もっと多様性、違いを認め合える社会にする。

（松本市元町1、自営業女性・41歳）

※市民タイムスのHPなどのアンケートより

